2026年4月発行

intertek news

Vol.92

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

CONTENTS

01 サステナビリティ認証について

02 特集
03 ISO管理責任者の課題と育成（2）
～育成から引継ぎへ、現場を支える実践アプローチ～

04 News＆Topics
- ISO 9001:2026 国際規格案（DIS）規格改訂情報
- IAFとILACの統合について
- JRCA講演会開催
- Information：経済産業省主催「GXリーグ」の登録検証機関への登録のお知らせ

05 審査の現場から
- お客様紹介
（株式会社アドバンテック／株式会社クールトラスト）
- 連載よみもの「審査員の心理」（環境編）
「パフォーマンス評価（5）」

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ
「組織のイメージアップと健康経営」
（審査員　吉井 久典）
- 環境よみものーゆらぐ時代と、つなぐ力
「現場から始まる『つなぐ力』」

07 お客様からのお便り
- 「世界最高の技術を持って社会に貢献」
（JFE精密株式会社）
- 「しあわせ、つなぐ製品づくり」
（株式会社サブリパーク）

08 研修コースのご案内
- ちょっといっぷく
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り
（三協オイルレス工業株式会社）

インターテック・サーティフィケーション株式会社
発行 大阪事務所
◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。
https://ba.intertek-jpn.com/

サステナビリティ認証について

サステナビリティ アシュアランス　平田（ひらた） 幸雄（ゆきお）

私は、企業のサステナビリティ（環境や社会への配慮）への取り組みが、定められたルールや基準に沿って適切に実施されているかを、第三者の立場から確認・評価する業務に携わっています。

具体的には、リサイクル素材が実際に使用されているか、オーガニック原料が適切に管理されているか、環境負荷の少ない原料が選定されているか、またパーム油や森林資源が自然環境を損なわない形で利用されているかといった点について、国際的な認証制度に基づき審査を行っています。

現在、サステナビリティへの取り組みは、企業イメージ向上のためだけでなく、事業を長期的かつ安定的に継続するための重要な経営課題となっています。国際認証は、「環境にやさしい」「持続可能」といった主張が事実であることを客観的に証明し、見せかけだけの取り組み、いわゆるグリーンウォッシュを防ぐ役割を果たします。

私が担当している主な認証は以下のとおりです。

・リサイクル認証（GRS／RCS）
・オーガニック認証（GOTS／OCS）
・バイオマス・循環由来炭素認証（ISCC EU／ISCC PLUS／ISCC CORSIA）
・パームオイル認証（RSPO）
・森林認証（FSC® CoC）

リサイクルのGRS認証およびオーガニックのGOTS認証では、原料の使用割合の確認に加え、工場の環境配慮状況、労働環境の適正性、有害化学物質の管理体制など、運営全体について総合的に確認します。また、バイオマス・循環由来炭素認証では、バイオマス原料の使用有無ではなく、その原料が持続可能に生産され、適切に管理・流通されていることを確認します。

さらに、森林およびパームオイルに関する認証は、自然環境や生物多様性の保全に向けて企業が実効性のある取り組みを行っていることを社会に示すものであり、他の認証と同様、厳格な管理状況を確認しています。

これまでに培ってきた専門的な知見と実務経験を活かし、新規認証制度の立ち上げ支援から、既存認証の維持・改善まで、企業の競争力向上に貢献するサポートを継続的に行ってまいります。

ご不明点やご相談等がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

ISO 管理責任者の課題と育成 (2)

～育成から引継ぎへ、現場を支える実践アプローチ～

角子 裕司

特集

本誌89号（2025年7月発行）の特集「ISO管理責任者の課題と育成」の後編をお届けいたします。前回は管理責任者の育成に焦点を当て、現状の課題をご紹介しました。今回は「守破離」の視点を取り入れ、育成から引継ぎまでの進め方を、統合マネジメントシステムを例にわかりやすく解説します。今後の取り組みのヒントとしてお役立ていただければ幸いです。　（編集部）

前回は、ISO管理責任者に求められる「マインド（意識）・スキル（技能）・ナレッジ（知識）」の三位一体の重要性と、現場と経営をつなぐ役割について整理しました。今回はその続編として、品質（ISO 9001）と環境（ISO 14001）の統合マネジメントシステムを一例に、実務の中でどのように人を育て、引き継いでいくかをテーマに解説します。

特に、日本の伝統的な成長モデルである「守破離（しゅはり）」の考え方を軸に、段階的な育成・引継ぎの進め方を整理します。

1 守破離によるISO管理責任者の育成

ISO管理責任者の育成は、短期間で完結するものではなく、1年目は「型を知る」、2年目以降は「考え、判断する」というように、複数年を見据えて段階的に進めていくことが望まれます。その考え方を整理する枠組みとして、日本の伝統的な成長モデルである「守破離」が参考になります。

- **守〈しゅ〉＝まずは型を知る段階（主に1年目）**

最初の段階では、前任者のやり方や決められた手順をそのまま学びます。文書や年間計画を確認し、内部監査や教育の場に同席することで、「ISOでは何をしているのか」「なぜ必要なのか」という全体像を理解していきます。

- **破〈は〉＝少しずつ自分で考える段階（2年目以降）**

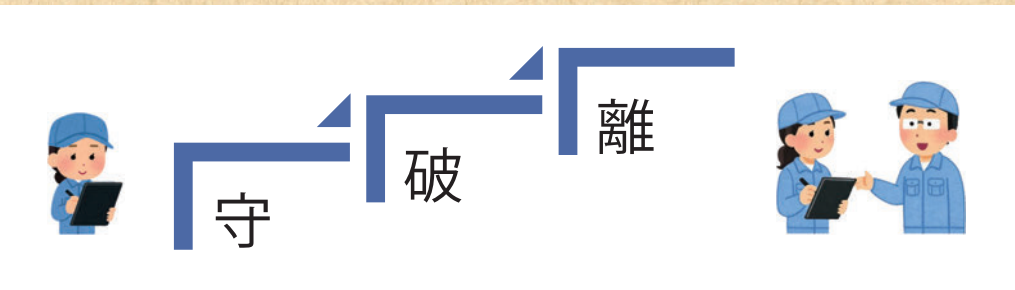
基本的な流れが分かってきたら、内部監査で質問をしたり、是正処置に関わったりしながら、改善に参加します。前任者の助言を受けつつ、「このやり方でよいのか」と考えることで、実務への理解が深まっていきます。

- **離〈り〉＝自分で判断できる段階（経験の積み重ねの中で）**

さらに経験を重ねることで、マネジメントレビューの準備や外部審査対応にも主体的に関わるようになります。会社の方針や現場の状況を踏まえ、自社に合ったISOの進め方を考えられるようになります。

このように「守破離」は、「見て学ぶ」「関わって学ぶ」「判断につなげる」という、実務を通じたISO管理責任者の成長プロセスを自然に整理した考え方です。これを育成の軸とすることで、段階的な役割拡大と実務経験の蓄積が可能になります。

2 ISO統合マネジメントシステム－育成・引継ぎスケジュール



次ページ上部の表は、ISO管理責任者の育成と引継ぎを前半は「守」、後半は「破・離」として整理した、統合マネジメントシステムを一例とする年間スケジュールです。

月	主な活動内容	後任者の関与度	学びの焦点	QMS（ISO 9001）要素	EMS（ISO 14001）要素
3月	年間計画策定 内部監査計画	同席	規格構造・年間流れ理解 〈守〉	プロセス管理、内部監査計画	環境側面、法令順守整理
4～6月	日常運用・記録確認	補助	手順・記録に慣れる 〈守〉	業務プロセス管理	環境影響・運用管理
7月	内部監査員教育 内部監査の準備	同席 参加	監査目的・見方理解 〈守〉	内部監査手法、力量	環境監査視点、法令確認
8月前半	内部監査	同行 観察	現場確認・質問技法習得 〈守〉	プロセス適合性確認	環境影響・運用状況確認
8月後半	内部監査結果整理・是正処置検討	一部担当	指摘理解・是正思考 〈破〉	是正処置管理	環境リスク対応
9月	是正処置の実施・効果確認	主担当	改善実行力 〈破〉	再発防止	環境負荷低減
10月	マネジメントレビュー	主導	経営視点での整理 〈離〉	レビュー・改善判断	EMS有効性評価
11月	外部審査（統合審査）	同席・一部対応	審査対応・説明力 〈離〉	顧客満足・是正管理	法令順守・パフォーマンス
12月	外部審査是正処置	主担当	改善定着 〈離〉	是正・改善管理	環境リスク是正

※本表は、ISO 9001／14001の要求事項を、管理責任者育成の視点で再整理したものです。
※内部監査・外部審査を通して、後任者は「観察 → 補助 → 主導 → 独立」へと成長します。

実務の流れに沿って、関与の度合いが段階的に高まる構成としています。（1年間で守破離を実践するモデル）。

3 守破離で進化する統合マネジメントシステム

年を重ねるごとに人が成長し、それに合わせてISOの使われ方も実態に合った形へと変わっていきます。「守」の段階では手順やルールを守ることで運用の土台が整い、「破」の段階では内部監査や是正処置を通じて改善点に気づけるようになります。

さらに経験を重ねることで、「離」の段階として、課題をマネジメントレビューで整理し、経営判断につなげる役割を担えるようになります。この流れを年次サイクルで積み重ねることで、ISOは、形だけの制度ではなく、人の成長と連動しながら、実務に根づいた管理の仕組みとして機能していきます。

4 まとめ

「守破離」の考え方を取り入れたISO管理責任者の育成は、単なる担当者の引継ぎではなく、人の成長を通じてISOを組織のマネジメント基盤として定着させていく取り組みです。短期間で完結させるのではなく、段階的に育てていくことが重要になります。

後任者は、内部監査や是正処置、マネジメントレビューといった年次サイクルを通じて経験を積み重ねる中で、徐々に判断力を身につけていきます。一方、現任者は伴走者として、支援から助言へと役割を移しながら、後任者の成長を支えていくことが求められます。

そしてトップマネジメントが、この育成プロセスの意義を理解し、継続的に関与することで、ISOは形だけの制度ではなく、経営と現場の双方を支える実践的なマネジメントシステムの仕組みとして、組織に根づいていくと言えるでしょう。

筆者紹介

角子 裕司（かくし ゆうじ）

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。

ISO 9001:2026国際規格案(DIS)規格改訂情報

今春発行見込みのISO 14001:2026に続き、本年9月頃の正式発行予定として、ISO 9001:2026(予定)の改訂作業も進められています。

品質マネジメントシステム規格の改訂内容のポイントの一つとして「リスク及び機会の強化」があげられます。2015年版ではリスク及び機会がセットの概念でしたが、改訂規格では事業環境、利害関係者のニーズや期待の変化が激しい現社会において、品質マネジメントシステムで達成したい運用目的＝意図した結果を達成する能力を高めることを目的として「リスクに基づく考え方＝Risk-based thinking」と「機会に基づく考え方＝Opportunity-based thinking」という品質概念をそれぞれ整理しながらマネジメントシステムを計画することを要求しております。リスクに基づく考え方により、マネジメントシステムの計画から乖離することを引き起こす可能性のある要因を明確にし、適切な対策を決定、実施することにより、製品・サービスの提供計画からの逸脱を引き起こすインシデントが発生した場合でも運用目的を継続的に達成することを確実にすることを目的としております。一方、機会に基づく考え方により、計画された目標から逸脱する要因に対処し、機会が発生した際にその効果を最大化することにつなげます。明確な機会、ニーズと目標、そして機会自体に関連するリスクを特定し、望ましい結果の達成を支援する戦略と計画を策定することが重要です。

関連セミナーも開催しておりますので、移行準備にお役立ていただければ幸いです。詳細は弊社ホームページをご参照ください。

IAFとILACの統合について

国際的な認定制度の枠組み再編により、IAF(国際認定フォーラム)およびILAC(国際試験所認定協力機構)は、認定の一元化と国際的な信頼性向上を目的に統合され、新組織「Global Accreditation Cooperation Incorporated: GAC(グローバル認定協力機構)」が2026年1月1日より正式に運営を開始しました。

この統合に伴い、ISO認証の国際的な信頼性を支える相互承認の仕組み(IAF MLA)は、新組織のGACへ引き継がれ、今後は同機構が一元的に管理を行います。また、統合に際しては、IAF・ILACが保持してきた国際相互承認の地位が継続されることが公式に示されており、UKASを含む既存認定の有効性に変更はありません。これにより、ISO認証の国際的な信頼性および受容性は従来どおり維持され、国際的な枠組みのもとで安定的に運用が継続される体制が確保されています。詳細はGACサイトをご参照ください。(参照:https://globalaccreditationcooperationincorporated.org/)

JRCA講演会開催

弊社審査員も審査員資格を登録している、一般財団法人日本要員認証協会マネジメントシステム審査員評価登録センター(JRCA)主催の講演会が、本年も2月にオンラインで開催されました。今年度の講演テーマは、「PDCA／SDCAの両輪で進める組織づくりの実践ポイント」、「AIマネジメントシステムの要点(ISMSとの比較)」、「根本原因分析(RCA)の要点」、「カーボンフットプリントを企業成長につなげる」の4つでした。

同様の講演会はIRCAなど他の審査員資格登録機関でも毎年実施されています。審査員資格の維持・更新には、所属審査機関やJRCA、各研修機関が行う教育への参加と、その実績報告・評価が必要になります。審査員は、これらの講演会を通じ、最新情報の習得や力量・審査技術の向上に努めています。

INFORMATION

～新検証サービス紹介～

経済産業省主催「GXリーグ」の登録検証機関への登録のお知らせ

～カーボンニュートラル実現へ、企業の脱炭素経営を支える信頼のパートナーとして～

インターテック・サーティフィケーションは、経済産業省が主導する脱炭素社会の実現に向けた枠組み「GXリーグ」において、この度「GXリーグ登録検証機関」として正式に登録されましたことをお知らせいたします。

◆背景:2026年度、排出量取引の本格化に向けて

日本政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」の達成に向け、企業には、GHG(温室効果ガス)排出削減の具体的アクションと透明性の高い情報開示が求められています。特に2026年度からの排出量取引制度(GX-ETS)の本格運用を控え、報告データの信頼性を担保する「第三者検証」の重要性が高まっています。

◆GXリーグにおける登録検証機関の役割

GXリーグの登録検証機関は、参画企業が提出するGHG排出量データや削減計画の適合性・妥当性を、GXリーグの基準に基づき検証します。インターテックは第三者の立場からデータの信頼性を担保し、企業の脱炭素経営に対する市場・投資家の信頼を強固にする役割を担います。

◆インターテックが提供する「付加価値検証」の強み

インターテック・サーティフィケーションは、長年にわたり広範な産業分野で認証・検証サービスを提供してまいりました。

1) **国際規格への知見**:ISO 14064(組織・プロジェクトのGHG排出量)やISO 14067(製品カーボンフットプリント:CFP)に準拠の検証実績を有し、グローバルサプライチェーンを見据えた検証が可能です。

2) **国内制度の実績**:東京都・埼玉県の登録検証機関としての長年の実績・知見をGXリーグにも活かします。

3) **現場主義の「付加価値審査」**:適合性確認にとどまらず、マネジメントシステムの改善や企業価値向上につながる気づきを提供する「付加価値審査」を基本方針としています。

◆今後の展望:GX推進の確かなパートナーとして

国際規格やGXリーグの要求事項に準拠した、信頼性の高い検証サービスを通じ、品質・コスト・納期のすべてにおいてお客様の事業環境に合わせた最適な検証サービスを提案し、企業のGX(グリーントランスフォーメーション)推進をバックアップいたします。

◆お問い合わせ

第三者検証のご相談、お見積依頼、技術的なお問い合わせ等は、担当:西薗(atsunori.nishizono@intertek.com)まで、お気軽にお問合せください。

お客様紹介

株式会社アドバンテック 愛媛本社・工場 真空機器事業部／マテリアル事業部 様

（ISO 9001：2015、ISO 14001：2015 認証登録）

株式会社クールトラスト O&M部／資産管理部 様

（ISO 9001：2015 認証登録）

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

株式会社アドバンテック様は、半導体製造装置向けの真空配管部品などの製造・販売、さらにテスト用ウェーハやレアメタルなどを取り扱う電子事業／マテリアル事業にも積極的に取り組まれ、国内外の拠点を通じて幅広く事業を展開されています。愛媛本社・工場で2012年にISO 14001を認証取得され、その後ISO 9001も導入、横浜支社他拠点にも拡げられています。グループ企業の株式会社クールトラスト様（東京本社）は、太陽光発電所のO&M（運転及び保守管理）ならびに資産管理を担い、日々「熱の影響を受ける現場」を管理されています。2017年に社内のシステム改善を目的にISO 9001を認証取得されました。

近年、気候変動への対応はISOマネジメントシステム審査においても重要な観点となり、組織には、気候変動に関するリスクや機会を現場でどう実装し、説明しているかを示すことが求められるようになっています。とりわけ夏場には、設備温度の上昇により「止めたくない設備を止めざるを得ない」あるいは「止められずにリスクや説明責任を抱え続ける」といった課題が顕在化しています。こうした現場の切実な声を起点に、アドバンテック様は、遮熱冷却フィルム「COOL-EARTH」を開発されました（https://mono.ipros.com/product/detail/2001562053/）。両社の管理現場での検証・活用にて設備への熱負荷低減や保全性向上の効果確認を重ね、現在では、同様の課題を抱える工場や設備管理現場からの問い合わせも増えているとのことです。

アドバンテック様開発『クールアース』

審査では、現場改善をマネジメントシステムに取り込んで定着させていることが評価され、社内のモチベーションも高く、ISOの活用意識の高さが伺えました。現場と技術をグループで循環させるこの取り組みは、ISOが求める気候変動対応を“実装可能な形”で示すとともに、「高温による設備トラブル」などに課題を抱える事業者にとって、再現可能な一つのモデルとなっており、今後のさらなる展開が期待されます。

https://www.advantec-japan.co.jp/
https://www.cool-trust.co.jp/

連載 よみもの 審査員の心理

第44回（環境編）

「パフォーマンス評価（5）」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

前回も述べましたが、内部監査もPDCAのC(Check)の機能と位置づけられ、内部監査のアウトプットがA(Acton)のための情報源として機能していることが望ましいと考えています。内部監査を実施しても指摘や改善の機会などのアウトプットが出ていない組織も見かけることがあり、改善の余地があるのではないかと感じることがあります。

内部監査員も社内の同僚であり、他部署であっても活動内容を理解しているはずで、内部監査では本音の困りごとなども話題になるかもしれません。規格要求事項に応える方法として他の手段もあるかもしれません。そのような場合の改善策なども議論し、改善の機会として提起されると良いでしょう。

監査所見としての不適合と改善の機会のどちらにするかの判断の基準が不明確に感じることもあります。内部監査員教育で、不適合の指摘方法も教育されたかと思います。基準（規格や手順書などで決められたこと）の引用、証拠（手順からの逸脱している状況）、結論 という三段論法で指摘できる場合は、不適合と考えて良いでしょう。引用する基準が特定できない場合は不適合とするには無理があるかもしれません。

不適合の指摘への対応としては、検出された不適合状況の修正処置に引き続き、不適合の原因を取り除く是正処置が必要になります。是正処置としては、マネジメントシステムで定めた手順どおりに活動できるようにするという対応以外に、手順を見直すことも選択肢になる場合もあります。手順が過剰なもので、実施に難がある場合などでは、規格要求事項に応える方法として他の手段があるかもしれません。

マネジメントシステムを組織に適した形に見直していくツールとして内部監査が活かされていることが望まれます。

審査員リレーエッセイ ⑨⓪

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From
愛媛県西条市
吉井 久典
（よしい　ひさのり）

Profile
専門分野：ISO 9001・ISO 14001・ISO 45001・ISO/FSSC 22000ー損害保険代理店発掘と育成他、食肉店および食肉加工業経営、商品開発、営業、品質管理、5S運営管理指導
経　　歴：特定非営利活動法人再生支援せとうち／株式会社ファームソレイユ、インターテック審査員（現職）

「組織のイメージアップと健康経営」

審査先の小規模会社では、若手社員の採用が3年間で5名実現され、業績は右肩上がりとなっていました。その内容の一端を紹介させていただきます。

組織が採った戦略は「①組織のイメージアップと②健康経営」の浸透でした。①スポーツ事業の支援（応援することで新入社員も含めた社員間の連帯が深まり、社内のチームワーク向上に繋がる）、ラッピングバスの利用、SNSのリニューアル、本社の改装。②民間のトレーニング施設利用の補助、スポーツイベントへの参加、ランニング通勤（役員が実践）の奨励。健康づくり推進宣言、健康経営優良法人認定。上記の活動により、指定病院でのメンタルヘルス検査では良好な結果でした。

環境よみもの

連載「ゆらぐ時代と、つなぐ力」②

「現場から始まる『つなぐ力』」

船井 勲 Isao Funai
品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任審査員／IRCA認定 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任講師

■ 気候変動とAIの時代に、ISOをどう活かすか

前回は、揺らぐ時代においてISOマネジメントシステム規格（以下、ISO）が、企業の持続可能性を支える「つなぐ力」になり得ることを述べました。気候変動の進行やAI技術の急速な普及は、企業活動の前提条件そのものを大きく変えつつあります。しかし現場では、「人が注意すれば防げる」「AIがあれば大丈夫」といった考え方が、かえってリスクを増幅させている可能性もあります。

人は疲労や思い込みからヒューマンエラーを起こします。一方でAIも万能ではなく、誤ったデータや前提条件のもとでは誤判断をします。ISOが目指しているのは、こうした不確実性を個人の能力や注意力、あるいはAIに委ねるのではなく、仕組みとして固定化し、非常時を含めて再発を防ぐことにあります。

■ 気候変動と非常時への備え

近年の気候変動は、猛暑、豪雨、台風、地震などの自然災害リスクを高め、企業活動の継続性そのものを脅かしています。これらはもはや「想定外」ではなく、「起こり得る前提」として捉える必要があります。

過酷な環境下や災害時には、通常時以上にヒューマンエラーが発生しやすくなり、判断の遅れや情報不足が被害を拡大させます。したがって気候変動対策としては、環境負荷低減にとどまらず、顧客対応や従業員の安全確保を含めた、組織自身のBCP（事業継続計画）および非常時対応を組み込んだISOの構築・運用が不可欠です。

■ AI活用と非常時対応の関係

AIは平常時には効率化や精度向上に大きく貢献しますが、非常時には必ずしも万能とは限りません。想定外の事象や学習データに含まれない状況では、誤った判断を示す可能性があります。そのためAIを活用する場合でも、非常時には人が介入し、判断を補正できる体制を、あらかじめ仕組みとして定めておくことが重要です。

ISO 14001やISO 45001における緊急事態の特定、テスト、見直しといった準備・対応やBCPの一部として、企業活動をAI任せにしないという意思決定は、人的資源による確実な緊急対応とも言えます。これらを手順や役割分担として明文化しておくことが求められます。

■ ヒューマンエラーとAI依存を「流れ」で防ぐ

ISOが優れている点は、平常時だけでなく、非常時を含めた一連の仕組みとしてリスク管理を行うところにあります。

想定されるヒューマンエラー、AI依存、自然災害による混乱を洗い出し、

- 非常時を含めて手順化する
- 教育・訓練や訓練型BCPにより定着させる
- 実施状況を監視・測定する
- マネジメントレビューで有効性を確認する

この継続的改善により、リスクは個人の問題ではなく、組織として管理される課題になります。

■ 経営と現場をつなぐ固定化の仕組み

ISOは、平常時・非常時を問わず、誰が対応しても一定水準を保てるよう固定化する仕組みです。

気候変動による災害リスク、ヒューマンエラー、AI依存を個別の問題として扱うのではなく、BCPを含めた統合的なマネジメントとして整理することが、これからの企業経営に求められています。

不確実な時代だからこそ、平常時だけでなく非常時にも耐える仕組みを持つこと―それこそが、ISOが持つ本質的な価値だと、私は考えています。

No.01 Letter

世界最高の技術を持って社会に貢献

JFE精密株式会社 （ISO 9001：2015 認証登録、ISO 14067 準拠算定／ISO 14064-3 第三者検証済）

コーティング技術室　平岩 凌一

本社（新潟県新潟市）

JFE精密株式会社は、1935年、日本鋼管新潟電気製造所として事業開始、1993年に現会社を設立（新潟市東区）、2006年にISO 9001を認証取得しています。［認証範囲：冷間鍛造部品の製造、及びコーティングの受託処理］

当社は2025年9月に、コーティング受託処理におけるカーボンフットプリントを ISO 14067:2018 に準拠して算定し、この算定結果をもとに環境配慮型コーティングとして、「ココログリーンコーティング」を業界で初めて商品化しました。この算定の信頼性と正確性については、インターテックより ISO 14064-3:2019 に基づく第三者検証を受けております。

当社の高機能コーティングを金型や工具に適用することにより、製品製造において直接排出されるCO_2量（スコープ2）の削減を期待できることに加え、CO_2排出量がゼロの太陽光発電を利用して実施したコーティングを適用すれば、製品製造で間接的に排出されたCO_2量（スコープ3）の削減にも訴求できることになります。また、この取り組みは、JFEスチール㈱のソリューションビジネスブランド「JFE Resolus」に登録して展開しています。

従来のISO 9001の枠組み、JFEグループの強みを生かした品質向上の活動に加えて、時代のニーズを先読みした商品提案によって、より一層のサービス強化を図っています。

環境配慮型コーティング商品

▶ https://www.jfe-seimitsu.co.jp/

No.02 Letter

しあわせ、つなぐ製品づくり

株式会社サプリパーク （FSSC 22000 v6 認証登録）

管理部　深澤 千穂

株式会社 サプリパーク

当社は栃木市にて、2014年に創業し、以来、サプリメントをはじめとする健康食品のOEM（受託製造）を主軸に、製造・販売を行ってまいりました。粉体や打錠など多様な剤形に対応し、多品種・小ロットといった幅広いニーズにも柔軟に対応できる体制を整えています。

新工場の操業に伴い、2021年には食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC 22000の認証を取得し、原料受け入れから製造、出荷に至るまで、より高い安全性と品質管理体制を確立しました。

お客様一社一社の想いやアイデアに真摯に向き合い、企画段階から丁寧に製品化を支援することを大切にしています。

サプリパークが目指すのは、人と人、企業と消費者をつなぐ「しあわせをつなぐ製品づくり」。確かな技術と誠実なものづくりを通じて、この世の中に必要とされる会社になるために、健康で豊かな暮らしの実現に貢献してまいります。

検査風景

▶ https://sapuri-park.com/

ちょっといっぷく

今年は昭和元年から満100年。大人世代には懐かしく、若者世代には新鮮な“昭和レトロ”が注目される中、4月29日には東京・日本武道館で政府主催の「昭和100年記念式典」が予定されています。昭和43年に明治100年を記念する式典が同じ武道館で行われており、今回も節目の年に歴史を振り返り、次世代へつなぐ契機となるようです。今号では、昭和100年にちなみ、“100”にまつわるお話をご紹介します。

今年は、明治ミルクチョコレート発売100周年や集英社100周年、睡蓮で知られる画家モネの没後100年、英国王室史上最長の在位を果たしたエリザベス2世の生誕100周年など、文化・歴史の分野で100年の節目が続きます。さらに、世界初の液体燃料ロケットの打ち上げから100年となり、近代ロケット技術の始まりから一世紀という科学史上の大きな節目にもあたります。

“100”の数字そのものにも目を向けると、漢字の「百」には“数が多い”“満ちている”といった意味があり、「百花繚乱」「百聞は一見に如かず」など、豊かさや多様性を感じさせる表現が多くあります。身近な“100”では、1957年に白銅製の100円硬貨が初めて発行されたことに由来する「100円玉の日」（11月9日）というのもありました。ちなみに、100円ショップの原点は江戸時代まで遡るとされ、当時の貨幣単位で一定の価格を示した四文均一の「四文屋」や、“二八そば”（十六文）などに、均一価格文化の姿を見ることができます。こうした“手軽に楽しめる定額の価値”は、昔から人々の暮らしの中に根づいていたようです。

今年はまた、世界中で愛される「くまのプーさん」が原作誕生100周年を迎えます。プーさんといえば、やはり“ハチミツ”。ハチミツは古くから使われてきた自然の甘味料で、古代には壺に入れて長期保存していたそうです。水分が少なく抗菌力が強いことから“腐りにくい食品”とされ、古代エジプトの王墓から発見された数千年前のハチミツが良好な状態で残っていた逸話もあります。アカシア、レンゲ、マヌカなど花の種類によって味わいが変わるのも魅力で、料理やスイーツ、化粧品まで幅広く利用されています。やさしい甘さと香りには心を和ませる力があり、ハチミツそのものが癒しとしても長年親しまれてきたことがうかがえます。

新生活の季節、新しい環境での緊張や忙しさで、気づかないうちに疲れもたまりがちです。プーさんの名言に「“何もしない”をする」という言葉があり、これはただ休むのではなく、心に余白をつくる前向きな休息のすすめとされています。慌ただしい毎日の中でも、ふと立ち止まる時間をつくることで、肩の力がすっと抜けて心が緩むかもしれません。ハチミツパワーも味方に、ほっとできるひとときを見つけていただければ幸いです。（参照・出典：内閣官房「昭和100年」、テレビ朝日「食彩の王国」、Disney公式「くまのプーさん」各HP）

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。（https://ba.intertek-jpn.com/study/）

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO9001（5日間）/ISO14001（3日間）/ISO45001（3日間）

※ISO14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

日程・開催地
- ISO 9001・・・10/2（金）～ 6（火）〈東京〉
- ISO14001・・・ 5/14（木）～ 16（土）〈東京〉
- ISO45001・・・ 5/23（土）～ 25（月）〈福岡〉
- ・・・ 6/11（木）～ 13（土）〈東京〉

NEW オンデマンド研修

- 短時間集中！1章5～20分でサクッと学べる
- 繰り返し視聴＆資料DLで、理解がぐんと深まる
- マルチデバイス対応、いつでもどこでも学習OK

＊気候変動、ISO 14001・9001規格改訂、FSSC Ver 7.0最新動向、MSC CoC認証などの人気コース、申込受付中！

好評！ オンラインセミナー

オンラインセミナー好評開催中！
各規格（ISO 9001/ISO 14001/ISO 45001/ISO 27001/ISO 22000等）の内部監査員養成コースを開催しています。また、講師派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

＊弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

環境マネジメントシステム改訂規格（案DIS）セミナー（オンデマンド）を受講して

～ISO 14001:2026（予定）認証移行に向けて～
環境マネジメントシステム改訂規格（案DIS）セミナー（2025年12月オンデマンド）受講

三協オイルレス工業株式会社　品質保証統括部 品質保証統括課 係長　知見 千秋

弊社は、1964年に創業し、各種無給油軸受、金型部品、機械部品の設計・製造・販売を行っております。2001年にISO 9001、2009年にISO 14001を認証取得し、統合版としてマネジメントシステムの構築・運用を行ってまいりました。

この度、同規格が2026年度に改訂となることから、移行準備に先立ち、当セミナーを受講いたしました。移行審査で重要となる、14001改訂版の内容pointを、「新設・追記・移動」の区分で、わかりやすく説明いただきました。また、ダウンロード資料と共に複数回視聴することもできた為、強化される要求事項（案）を落ち着いて再確認する事ができました。

ISO 9001と併用した「規格改訂・移行審査までのステップ」を参考に、2規格統合で無事に移行審査が完了できるよう取り組んでまいります。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　https://ba.intertek-jpn.com/

東京事務所　〒105-0001　東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル4F　E-mail：info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所　〒532-0003　大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com